

Title	「中國文學報」總目錄(第五十一冊 - 第六十一冊)
Author(s)	
Citation	中國文學報 (2000), 61: 1-3
Issue Date	2000-10
URL	https://doi.org/10.14989/177858
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

『中國文學報』總目錄
 (第五十一冊～第六十一冊)

1 總記

蟬の詩に見る詩の轉變	川合康三	57
妖道與妖術——小説、歴史與現實中的道教批判	葛兆光	57
我與漢語方言	李如龍	61
書評：田仲一成『中國巫系演劇研究』	金文京	53
書評：川合康三著『中國の自傳文學』	吉川忠夫	54
書評：中里見敬『中國小説の物語論的研究』	金文京	56
紹介：アメリカにおける中國古典詩の研究——一九六二年から一九九六年まで——第一部 (上)(下)	ウィリアム・H・ ニイハウザー・Jr	55,56
紹介：アメリカにおける中國古典詩の研究——一九六二年から一九九六年まで——第二部 (上)(中)(下)	ウィリアム・H・ ニイハウザー・Jr	59,60,61
紹介：近十年のフランスにおける中國文學研究の發展(上)(下)	フランソワ・マルタン	57,58

2 先秦・漢代文學

書評：夏傳才『詩經研究史概要』	大野圭介	52
劉歆「上山海經表」をめぐって	大野圭介	51
『史記』における二人稱代名詞の特徴について	今鷹眞	56

3 魏晉南北朝文學

うたげのうた	川合康三	53
書評：程章燦『魏晉南北朝賦史』	原田直枝	51
陸機と「楚」——聲律意識の形成について——	木津祐子	53
陸雲的“用思困人”及其他	戴燕	52
陸雲與兄平原書箋注(二則)	戴燕	57
疾走する逸民——郭璞「江賦」の敘法——	佐竹保子	58
「郭璞」説話の形成	大平幸代	59
「歸去來兮辭」の「辭」について	釜谷武志	61
詩的言語としての知覺動詞——陶淵明と謝靈運の詩から——	堂藺淑子	60
謝靈運の山居——〈居〉の文學(二)	齋藤希史	61

何遜詩の風景——謝朓詩との比較——	堂 蘭 淑 子	57
書評：岡村 繁著『文選の研究』	富 永 一 登	60
『文心雕龍』事類篇筋記	幸 福 香 織	52
庾信の碑傳文	原 田 直 枝	53
5 隋唐文學		
初唐の「序」について	道 坂 昭 廣	54
唐代詩論の展開における皎然詩式	興 膳 宏	55
韓愈・孟郊「城南聯句」初探	川 合 康 三	61
書評：謝思焯『白居易集綜論』	下 定 雅 弘	58
贈内詩の流れと元稹	姜 若 冰	59
青銅鼎與錯金壺——道教語言在中晚唐詩歌中的使用——	葛 兆 光	52
書評：桐島薫子著『晚唐詩人考——李商隱・溫庭筠・杜牧の比較と考察——』	愛 甲 弘 志	59
紹介：八十年來中國寒山詩集の整理和研究	羅 時 進	60
6 宋代文學		
關於〈吟窗雜錄〉及其版本問題（附校記）	張 少 康	51
蘇軾の觀物	湯 淺 陽 子	52
蘇軾の歸田と買田	湯 淺 陽 子	54
蘇軾の詩における佛典受容について——『維摩經』『楞嚴經』を中心に——	湯 淺 陽 子	59
朱子語類讀書法篇譯注（四）～（七）	興膳宏・木津祐子 齋藤希史	51,52, 53,54
朱子語類論文篇譯注（一）～（七）	興膳宏・木津祐子 齋藤希史	55,56,57, 58,59,60,61
7 金元代文學		
『孝經直解』の出版とその時代	宮 紀 子	56
鄭鎮孫と『直說通略』（上）（下）	宮 紀 子	58,59
元雜劇の祭祀的演目について	小 松 謙	58
8 明代文學		
李夢陽詩論	松 村 昂	51
歸有光の文學	田 口 一 郎	55
『五代史平話』のゆくえ	氏 岡 眞 士	56

『殘唐五代演義』への道——小説と講史——	氏 岡 眞 士	52
9 清代文學		
清詩話佚書考	蔣 寅	55
羅振玉・王國維と明治日本學界との出会い—— 『農學報』・東文學社時代をめぐって	錢 鷗	55
10 現代文學		
目の文學革命・耳の文學革命——一九二〇年代 中國における聽覺メディアと「國語」の實驗	平 田 昌 司	58
話劇史における翻譯劇とその上演——一九三〇 年までの場合——	夏 嵐	51
厨川白村與中國現代作家	梁 敏 兒	53
厨川白村與中國現代文學裏の神祕主義	梁 敏 兒	56
書評：田本相主編『中國現代比較戲劇史』	夏 嵐	52
論廢名小説《橋》的詩化特徵	吳 曉 東	54
「洋場」の「洋人」——張愛玲小説の外國人	濱 田 麻 矢	54
中國話劇史上の翻譯劇とその上演——戰時中及 びその後の場合——	夏 嵐	60
『殺夫』論	津 守 陽	59